

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ハッピーテラス静岡駅南教室				公表日	2026年2月17日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	4	限られた空間だが、机の配置変更やカーテン等の仕切りを活用し、活動に応じた居場所作りを工夫している。	構造上、専用のクールダウン室の確保が難しい。現設備を最大限に活かし、柔軟な環境整備に努めたい。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	規定以上の人員を配置し、日々の利用人数に応じたシフトを作成。ゆとりある体制で、一人ひとりの状況に合わせた対応を心がけている。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	活動の場合はワンフロアで死角がなく全体を見渡せる状況である。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	毎日清掃と消毒をおこない、清潔な環境維持に努めている。限られたスペースでできる運動課題にも取り組んでいる。	より静音性の高い環境や完全な個別空間が必要な場面への対応が課題である。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	相談室や仕切りを柔軟に活用し、個別相談や小集団療育、着替え等に対応している。時には玄関先も活用するなど、居場所作りを工夫している。	複数の相談や相談室使用時と活動が重なった際の調整が課題である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	定期的な会議や振り返りを通じて、支援方針や業務課題を常に共有している。適切なタイミングで協議する場を設けることで、スタッフ間の共通認識を深めることができるように努めている。	実施頻度が限られているため、短時間で情報共ができる仕組み作りをしていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年1回の保護者アンケートの結果を職員間で共有し、具体的な運営改善につなげている。また、日々の送迎時やアセスメントなどで保護者との密な意思疎通を図ることに努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	定期的な面談や会議を通じ、支援方針や業務変更を迅速に共有できる体制を構築している。職員の意向を尊重しつつ、組織的な情報伝達を心がけている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		現在は行っていない。必要に応じて今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	社内外の研修やオンライン研修へ積極的に参加し、得た知識を職員間で共有している。毎月の本部研修で学ぶ環境を整えるほか、支援上の課題はスーパーバイザーに相談し解決を図っている。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	HPや毎月の通信で情報を公開し、本部の週替わりプログラムに基づき支援を展開している。毎日のトレーニング内容を紙面で配布し、フィードバックをおこなっている。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	2	中高生を中心に、面談を通じて本人から直接意向を確認し個別支援計画へ反映させるようにしている。保護者主体のニーズ把握だけでなく、本人の主体性を尊重した計画作成に努めている。	現在は一部の年代や対象者にとどまっているため、全員のニーズをくみ取れるようにしていきたい。年齢や特性に応じたヒアリング方法を検討していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	児童発達支援管理責任者と指導員とで支援会議を定期的に開催し、現場の意見を集約したうえで計画を作成している。職員全員のチェックを経て方針を決定し、共通認識の下で一貫した支援に努めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	計画作成時に内容を回覧、共有し、職員全員が把握したうえで支援にあたり、支援会議等で定期的に振り返りをおこなっている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	専用ツールで苦手分野を数値化し、日々の様子と照合して支援につなげている。専門的なアセスメントに加え、日報や職員間の協議を通じ多角的に評価している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	五領域に基づき、全項目で具体的な支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	毎週、職員全員で考案会議を実施して、内容を検討。日々の子どもの様子に合わせて毎日協議のもと、プログラムの提供をしている。		

援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	週ごとのテーマを軸に、過去の実施内容と重複しないように配慮しつつ、鮮新な取り組みを考案している。活動の反復により学びを定着させ、楽しく参加できる環境作りに努めている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	集団活動を主軸としつつ、子どもの状況や要望に総じて個別支援を柔軟に実施している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	トレーニング内容や職員配置を事前に確認し、職員全員が役割と支援目的を共有できるようしている。	日々の業務に追われ、トレーニング内容の共有が不十分になる場面があるので、短時間でも確実に打ち合わせができる時間を固定するなど、情報共有を仕組み化していきたい。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	支援終了後の振り返りや口頭でのやり取りを通じ、その日のうちに重要な情報を共有、協議する体制を整えている。日報への詳細な記載と合わせて、迅速な情報連携に心掛けている。	業務の状況により、一部の共有が後日にすれ込むケースがある。共有フローの見直しや短時間で効率的に伝達できる仕組み作りを検討していきたい。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	日々の子どもの様子を支援目標と照らし合わせ、詳細を日報に記録することで、目標達成に向けたプロセスの可視化を図っている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	日々の観察と定期的な会議を通じ、モニタリングをおこなっている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3	2	四つの基本活動のうち「自立支援・創作活動・余暇の提供」については、日々のトレーニングに取り入れている。	「地域交流」の機会が不足している。送迎車両がないため、公共交通機関を利用した外出を年1~2回おこなっている。今後は地域イベントへの参加などに目を向けていきたい。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	子どもの主体性を尊重し、支援やトレーニングのなかに自分で活動を決める場面を設けている。自己決定が苦手な子には、個々の状況に合わせて選択肢を提示している。	自分で選んだ結果に対しての振り返りも丁寧におこない、自信を持って意思決定ができるような動機付けの強化に努めていきたい。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	児童発達支援管理責任者に加え、対象の子どもの状況をよく理解している職員が同行、参加している。	
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	3	保護者から要望があった際には、学校見学や担任の先生との情報共有をおこない、多角的な視点から支援の方向性を検討している。	保護者からの要望を起点とした受動的な連携が中心である。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	0	5	学校への送迎をおこなっていないため、学校のHPや利用者本人、保護者から、学校行事やスケジュールの把握に努めている。	直接学校へ行く機会が少なく、学校との対面での情報共有機会が不足していることが課題。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	同法人内の児童発達支援事業所から移行していく子どもに関しては、就学前の状況についてスムーズに引き継ぐことができている。	他事業所や新規の利用者については、保護者からの聞き取りが中心である。保護者に確認のうえ、関係機関からの客観的情報に基づいたアセスメントをしていきたい。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5	卒業後の福祉サービス事業所から直接照会はないが、相談支援事業所を通して、他事業所へ必要な支援情報が共有されるようにしている。	卒業後の生活がより円滑になるよう、進路先の事業所との関係性作りをしていきたい。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーパイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	児童発達支援センターとの連携は積極的にはできていないが、他の機関やスーパーパイザーに必要に応じて相談するようにしている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	0	5		それぞれの状況やプライバシーへの配慮もあり、現在は積極的には機会を設けていない。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		積極的な参加はできていない。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	日々の送迎時に貴重なコミュニケーションの機会ととらえ、その日の様子やできしたこと、がんばったことを伝えるよう努めている。また、定期的にトレーニングの評価や活動の振り返りをまとめた文書をお渡している。	送迎が重なる時間には十分なフィードバックができないことがあるのが課題である。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	面談時や保護者からの相談があった際に、家庭での対応についても助言をしている。また、外部研修やオンライン研修があるときには情報提供をしている。	家族支援プログラムや教室主催による研修などはおこなえていない。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	運営規程は教室入口に掲示、毎月のお知らせで支援プログラムについては紹介している。利用者負担等については契約時、変更時に説明している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	アセスメントの際、保護者からの聞き取りに加え、子ども本人との面談も実施している。保護者の移行と本人のニーズをすり合わせて計画を作成している。	本人の意向を汲み取る際に、言語での表現が難しいことがあるので、普段からのかかわりと定期的なモニタリングが重要だと考えている。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	作成時および更新時には、変更点や継続事項についての説明を必ずおこない、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	送迎時は大切なコミュニケーションの機会ととらえ、保護者からの相談に対してはその場で可能な限り迅速に助言を行うよう努めている。また、必要に応じて、面談の時間を設けている。	送迎時は周囲の状況や時間の制約もあり、プライバシーの確保や深い対話が難しいことがある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5	ご家庭のプライバシーや状況を考慮し、現在はあえて教室主催の交流会は設けていない。個別の相談に対しては、兄弟間の関わり方や家庭での過ごし方について、各家庭の事情に合わせた助言をおこなっている。	保護者参加型のイベントの開催など、ご家庭の希望に応じて検討していかたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	契約時に「苦情を含め、気になることはいつでも相談してほしい」旨を説明し、保護者が声を上げやすい信頼関係の構築に努めている。苦情があった際にはすぐに対応できるよう体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	毎月発行する「ハッピーテラスからのお知らせ」を通じて、トレーニング内容やスケジュール、重要事項をお伝えしている。LINEを活用し、活動の様子の発信や、緊急時に迅速な対応ができるよう心掛けている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報が含まれる書類は鍵付きの書庫に保管し、取り扱い場所を事務室内に限定するなどの管理体制を取っている。	事務室へのこどもの立ち入りを制限し、個人情報が子どもの目にふれない環境作りを徹底していかたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	口頭での説明だけでなく、表や文字を用いた文書を併用し、視覚的にも伝わりやすいよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		現在は行っていない。必要に応じて今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアルを作成し、教室入口の棚に設置し、いつでも閲覧できる状態にしている。年間計画に基づき、定期的な避難訓練を実施し、実施前には保護者へ通知をおこなうようにしている。	訓練の実施について、十分に伝わっていないことが課題である。事前の通知と事後の報告を徹底していかたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	地震や水害、感染症の蔓延などの緊急事態に備え、業務継続計画を策定し、計画に基づき定期的な避難訓練をしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時や定期的におこなうアセスメントで確認をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	医師の指示書の提出には至っていないが、アセスメントや聞き取りを通じて、アレルギー情報を把握、管理している。食物を扱うイベントの際には事前に保護者に確認をし、誤食防止に努めている。	現在は重篤なアレルギーはないが、より安全性を高めるために、医師の指示書の提出を依頼するフローを構築していかたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画に基づき、定期的な研修や訓練を通じて職員全体で危機管理能力を高めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	契約時に、緊急時の対応について必ず説明をしている。毎年「緊急連絡票」の更新を依頼し、連絡先の最新化を徹底している。避難経路や避難場所と言った情報は、年に一回確認のために文書を配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハット事例が発生した際には、その日のうちに職員間で情報を共有し、原因分析と再発防止策の検討を実施している。検討内容はヒヤリハット報告書として記録を残している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	定期的に研修を受講したり、職員間でも話し合いをして、虐待防止に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	身体拘束禁止の定義とリスクを職員間で共有。実施の際は、保護者への説明、個別支援計画への記載、記録作成と保存を徹底する体制を整え、適正な対応と権利擁護に努めている。	